


平成 27 年度「なごや歴まちびとの会」 第 2 回フォローアップ講座 記録

	日 時	平成 28 年 1 月 2 7 日 (水)	10 : 30 ~ 16 : 00
	場 所	明治村 (講演会 三重県庁舎彩の間)	
	講 師	講演 明治村館長 中川 武氏	
	出席者	歴まちびと 15 名、一般 20 名、名古屋市 3 名、公社 3 名 (合計 41 名)	

1. 講 演 : 中川 武氏 (明治村館長) 10 : 40 ~ 12 : 10

演 題 : 「博物館明治村における文化遺産保存活用の課題と可能性」

◇中川先生は、明治村の建物を紹介しながら、明治という時代をいくつかのキーワードで解説した。

(1)明治初期、日本は約 20 年で西洋からいろいろな社会制度を採り入れ、実に多く建物を建てた。宇治山田郵便局からは郵便制度、蔵持小学校からは教育制度の普及、北里研究所からは医学研究の進歩、品川燈台からは洋式灯台の整備が**文明開化**とともに急速に進んだことがわかる。

(2)長い鎖国時代が続いたため**西洋への憧れ**が強かった。禁令から解放されたキリスト教徒は各地に教会を建設した。大明寺聖パウロ教会の外観は旧来の農家に過ぎず、ゴシック様式をまねた内部やルルドの泉を再現した祭壇など、全体としてまだ抑圧されてきた時代背景を感じる。その後建てられた聖ヨハネ教会、聖ザビエル教会は木造とレンガ造が併用され、伝統的構法と新しい構法を調和させて造られていったことがわかる。

(3)**和洋折衷**が最も端的に表れたのは住宅分野である。西郷従道邸は広大な敷地にあった洋館であり、日常は渡り廊下でつながる和館で生活し、外国人客を迎えるときに洋館を使用した。芝川邸は和洋折衷のデザインが随所に見られ、和式と洋式の生活をするようになった当時の上流階級の住宅の特徴をよくあらわしている。

(4)鉄道寮新橋工場や硝子製造所は明治時代の**殖産興業**を知るうえで大切な施設である。プリユナ・エンジンは近年世界遺産になった富岡製糸場で実際に使用されていたエンジンであり、リング精紡機は日本の紡績史上貴重な産業遺産である。

(5)西園寺公望が政界引退後、静岡県興津に建てた坐魚荘は、**伝統の近代化**を知るうえで重要な建物である。伝統の数寄屋造りでありながら、筋違等の構造補強・隠ぺい部分での強度確保など西洋の技術をうまく取り入れている。また東松家住宅は、明治以降の伝統的技術の成熟を知るうえで好例である。

(6)**明治の都市**には自然との調和感、**空間の多様性**があった。街路 (外部) と家内 (内部) には接点があり、空気感、雰囲気を感じる中間的な空間があった。それは懐かしさ、楽しさを感じる空間でもある。帝国ホテルは全体的なものと部分がお互いに助け合っている。自然に人々を引き入れる寸法、形式性と空間の流動性の統一が見事である。装飾にも奥深さがある。

◇その後、建築生産の歴史やアジアの遺跡調査の報告などのお話をいただいた。

◇質疑応答では、明治村が歴史的建物の現地保存を考えてもらう機会になってほしい、建物解体に抗しきれない場合もあるが考えなくてはダメ、進歩のスピードを緩めざるを得ないこともあると助言があった。

2. 明治村見学会 13 : 30 ~ 16 : 00

午後からは 39 名が 2 班に分かれ、ボランティアガイドの引率で村内の建物を見学した。その後、魚津社寺工務店のご厚意により、急遽、担当された坐魚荘改修工事について現地で説明をうかがうことができ大変勉強になった。

(佐藤)

